

エコアクション21

環境経営レポート

(2023年2月1日 ~ 2024年1月31日)



2024年3月1日

KAWAURA

川浦土建株式会社

1.環境経営方針

わたくしども川浦土建はお客様の要求を満たす品質の構造物及び建築物を提供するとともに、地球環境の保全を常に考え、地域環境に配慮した事業活動を、自主的・積極的に行ってまいります。

- 1 . 環境関連法規等を遵守し、環境保全活動の推進に努めます。
- 2 . 事業活動に使用する電気使用量及び車両の燃料使用量の削減に努め、二酸化炭素排出量の削減に寄与します。
- 3 . 廃棄物の削減に努力し、分別を積極的に実施し、リサイクルに努めます。
- 4 . 事業所での節水を行い、水の使用量の削減に努めます。
- 5 . 施工で使用する化学物質の管理を徹底します。
- 6 . グリーン購入の拡大に努めます。
- 7 . 環境負荷の少ない設計施工に努めます。
- 8 . 環境活動の社会貢献を推進します。
- 9 . 事業所及び工事現場での光熱費の削減及び廃棄物の分別・削減の取組によるコスト削減によって経営の改善を図り、本システムが環境・経営の両側面において企業が持続的に環境への社会貢献また社会的存在意義を成す弊社の基盤となるよう、運用に努めていきます。

この環境経営方針を社員全員に周知し、この取り組みの維持に努めます。

2019年11月29日

川浦土建株式会社

代表取締役社長

川 浦 俊 樹

2. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者名

川浦土建株式会社
代表取締役社長 川浦 俊樹

(2) 所在地

本 社	長野県長野市大字長野立町978番4
土木事務所／倉庫	長野県長野市新諏訪1-27-15
ヤマダイ建設(有)	長野県長野市新諏訪1-27-15
新土木倉庫	長野県長野市新諏訪1-796-2他
店舗兼事務所	長野県長野市安茂里1703-1

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者	土木部	斉藤 俊洋	TEL：026-234-7624
環境管理担当者	建築部	久保田 嘉浩	TEL：026-235-1318
	本社総務部	山本 努	TEL：026-235-1318
	ヤマダイ	宮澤 宏明	TEL：026-234-7651

(4) 事業内容

建設業 長野県知事 許可（特 - 3）第 1531号

土木工事業	建築工事業	大工工事業	左官工事業
とび・土工工事業	石工事業	屋根工事業	
タイル・れんが・ブロック工事業	鋼構造物工事業	鉄筋工事業	
舗装工事業	しゅんせつ工事業	板金工事業	ガラス工事業
塗装工事業	防水工事業	内装仕上工事業	熱絶縁工事業
建具工事業	水道施設工事業	解体工事業	

除雪業務委託
産廃物収集運搬業 長野県 2008075966
二級建築事務所 長野県知事登録（長野）D第78072号
宅地建物取引業許可 長野県知事（1）第5849号
ヤマダイ建設(有) 建設業 長野県知事 許可（般 - 1）第 22669号

土木工事業	建築工事業	塗装工事業
とび・土工工事業	石工事業	解体工事業
鋼構造物工事業	舗装工事業	
しゅんせつ工事業	水道施設工事業	

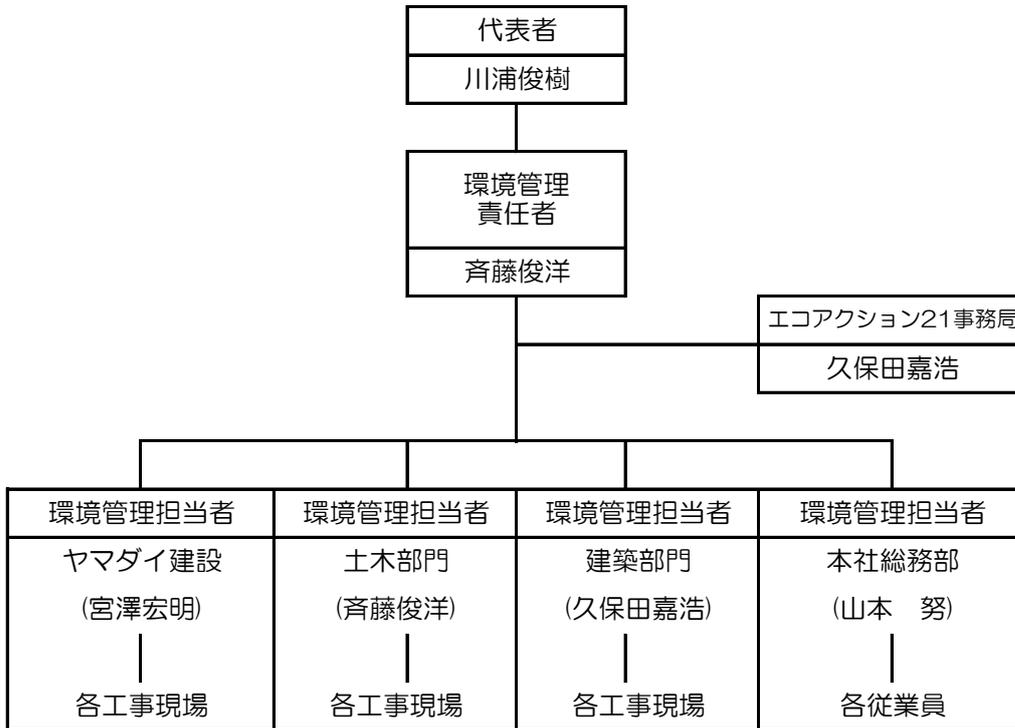
(5) 事業規模

売上高	11億2百万	第63期(2023.6)
従業員数	31人	

ヤマダイ建設(有)		
売上高	1億53百万	第21期(2023.6)
従業員数	5人	

対象範囲 全組織・全事業所を対象とする

実施体制図 及び 役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境管理責任者を任命 環境経営目標の承認 全体の評価と見直しの実施 環境経営計画書の承認 環境経営方針の策定・見直し
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築・運用する 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 Ecoアクション21の取組推進 環境経営目標・環境経営計画書を確認
Ecoアクション21事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営レポートの作成 環境経営目標・環境経営計画書の作成 環境関連の外部コミュニケーションの窓口
各部門	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の周知及び環境経営システムの実施 環境経営計画の実施及び達成状況の報告 各活動におけるチェックリストの記録・運用管理 問題点の発見及び報告
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

3-1. 環境経営目標及び取組実績

	取組項目	単位	基準値 (2013.10~ 2014.9)	目標 2023.2~2024.1	実績 2023.2~2024.1	2024.2~2025.1	2025.2~2026.1
二酸化炭素の排出量削減	電力消費量の削減 (二酸化炭素排出係数：0.513)	kg-CO2	23683	22499	21293	22499	22499
		%	※2019基準	5%削減	10%削減	5%削減	5%削減
	LPガス消費量の削減	kg-CO2	91	86	23	86	86
		%		5%削減	73%削減	5%削減	5%削減
	都市ガス使用料の削減	kg-CO2	2448	2325	2186	2325	2325
		%		5%削減	11%削減	5%削減	5%削減
	灯油消費量の削減	kg-CO2	3160	3002	3835	3002	3002
		%		5%削減	21%増加	5%削減	5%削減
	ガソリン消費量の削減	kg-CO2	66450	63127	57273	63127	63127
		%		5%削減	14%削減	5%削減	5%削減
軽油消費量の削減	kg-CO2	74768	71030	68458	71030	71030	
	%		5%削減	8%削減	5%削減	5%削減	
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	170600	162069	153068	162069	162069	
	%		5%削減	10%削減	5%削減	5%削減	
廃棄物排出量の削減	一般廃棄物のリサイクル率の向上	kg	848.3/1318		1157/1426		
		%	64.4%	80%以上	81%	80%以上	80%以上
	コピー用紙購入の削減	kg	754	716	784	716	716
		%		5%削減	4%増加	5%削減	5%削減
	産業廃棄物の分別及びリサイクルの推進	kg	<u>2,330,429</u> 2,337,303		<u>3,079,741</u> 3,127,659		
		%	99.7%	リサイクル率 99%以上	98.5%	リサイクル率 99%以上	リサイクル率 99%以上
事業所利用水の節水	m3/年	219	208	207	208	208	
	%		5%削減	5%削減	5%削減	5%削減	
化学物質、乳剤の管理徹底	kg/年	5,600	管理徹底	3,200	管理徹底	管理徹底	
事務用品のグリーン購入の拡大	---	---	実施	○	実施	実施	
環境配慮施工の推進	---	---	実施	○	実施	実施	
環境活動の社会貢献推進 (会社周辺の清掃)	件数 (月1回)	12	12	12	12	12	

3-2. 年度毎の環境経営目標設定書（5ヶ年）

承認	確認	作成
川浦	斉藤	久保田
代表者	環境管理責任者	事務局

毎年、代表者による見直しを踏まえて目標値及び達成手段を見直す。

作成日： 2017.5.15

更新日： 2024.2.15

負荷の自己チェック コア指標	環境方針 (ワード)	環境目標項目 (負荷の自己チェックを踏まえて策定)	基準値 (13・10~14・9)		年度毎目標・達成手段 (取組の自己チェックを踏まえて策定)						
					2023年度 (23・2~24・1)	2024年度 (24・2~25・1)	2025年度 (25・2~26・1)	2026年度 (26・2~27・1)	2027年度 (27・2~28・1)		
					2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度		
二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量の削減	電力・LPガス・都市ガス・灯油の二酸化炭素排出量削減	電力	29,382 kg-CO2 46,165 kWh 23,683 kg-CO2	0.5	基準年度比	95%	95%	95%	95%	95%
			(+)1000 kWh	2019年	達成手段	温度の適正化（冷房28℃ 暖房20℃）	温度の適正化（冷房28℃ 暖房20℃）	温度の適正化（冷房28℃ 暖房20℃）	温度の適正化（冷房28℃ 暖房20℃）	温度の適正化（冷房28℃ 暖房20℃）	
			CO2係数	0.513		昼食時、外出時等使用していない部屋・場所の消灯の徹底	昼食時、外出時等使用していない部屋・場所の消灯の徹底	昼食時、外出時等使用していない部屋・場所の消灯の徹底	昼食時、外出時等使用していない部屋・場所の消灯の徹底	昼食時、外出時等使用していない部屋・場所の消灯の徹底	
			LPガス	30 kg		クールビズ・ウォームビズの励行	クールビズ・ウォームビズの励行	クールビズ・ウォームビズの励行	クールビズ・ウォームビズの励行	クールビズ・ウォームビズの励行	
			都市ガス	1,177 Nm ³		2.1	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
		灯油	2,448 kg-CO2 3,160 kg-CO2	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5		
		自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	ガソリン	28,622 l	2.3	基準年度比	95%	95%	95%	95%	95%
			軽油	28,490 l 141,218 kg-CO2	2.6	目標値	134,157 kg-CO2	134,157 kg-CO2	134,157 kg-CO2	134,157 kg-CO2	134,157 kg-CO2
			2013年	達成手段	アイドリングストップの励行	アイドリングストップの励行	アイドリングストップの励行	アイドリングストップの励行	アイドリングストップの励行		
			急加速・急停車の防止		急加速・急停車の防止	急加速・急停車の防止	急加速・急停車の防止	急加速・急停車の防止			
現場への効率的な資材配送、人員移動(相乗り)	現場への効率的な資材配送、人員移動(相乗り)		現場への効率的な資材配送、人員移動(相乗り)		現場への効率的な資材配送、人員移動(相乗り)	現場への効率的な資材配送、人員移動(相乗り)					
社有車の運転記録の管理	社有車の運転記録の管理	社有車の運転記録の管理	社有車の運転記録の管理		社有車の運転記録の管理						
合計		170,600 kg-CO2		162,070	162,070	162,070	162,070	162,070			
廃棄物排出量	廃棄物の削減	一般廃棄物のリサイクル率の向上	848kg 1318kg	64 %	目標値	80%	80%	80%	80%	80%	
		コピー用紙購入の削減	754 kg	2013年	基準年度比	95%	95%	95%	95%	95%	
		産業廃棄物のリサイクル率の向上	2,330,429 kg	#####	目標値	716 目標値	716 目標値	716 目標値	716 目標値	716 目標値	
					達成手段	分別の徹底によるゴミの減量 リサイクル率80%を目指す	分別の徹底によるゴミの減量 リサイクル率80%を目指す	分別の徹底によるゴミの減量 リサイクル率80%を目指す	分別の徹底によるゴミの減量 リサイクル率80%を目指す	分別の徹底によるゴミの減量 リサイクル率80%を目指す	
					コピー用紙の裏面使用・両面コピーの推進（コピー用紙の購入量の削減）	コピー用紙の裏面使用・両面コピーの推進（コピー用紙の購入量の削減）	コピー用紙の裏面使用・両面コピーの推進（コピー用紙の購入量の削減）	コピー用紙の裏面使用・両面コピーの推進（コピー用紙の購入量の削減）	コピー用紙の裏面使用・両面コピーの推進（コピー用紙の購入量の削減）		
					ミスコピーの防止 使用済封筒の再利用	ミスコピーの防止 使用済封筒の再利用	ミスコピーの防止 使用済封筒の再利用	ミスコピーの防止 使用済封筒の再利用	ミスコピーの防止 使用済封筒の再利用		
建設現場の、分別の徹底	建設現場の、分別の徹底	建設現場の、分別の徹底	建設現場の、分別の徹底	建設現場の、分別の徹底							
産業廃棄物のマニフェスト管理の徹底	産業廃棄物のマニフェスト管理の徹底	産業廃棄物のマニフェスト管理の徹底	産業廃棄物のマニフェスト管理の徹底	産業廃棄物のマニフェスト管理の徹底							
総排水量	節水	節水	(+)20m ³ 219 m ³ 2013年	基準年度比	95%	95%	95%	95%	95%		
				目標値	208 目標値	208 目標値	208 目標値	208 目標値	208 目標値		
化学物質の管理	化学物質の管理	化学物質の管理の徹底	乳剤	5,600 kg	達成手段	乳剤の管理徹底	乳剤の管理徹底	乳剤の管理徹底	乳剤の管理徹底	乳剤の管理徹底	
					手達段成	節水の励行 水の出っぱなし防止 雨水の利用	節水の励行 水の出っぱなし防止 雨水の利用	節水の励行 水の出っぱなし防止 雨水の利用	節水の励行 水の出っぱなし防止 雨水の利用	節水の励行 水の出っぱなし防止 雨水の利用	
物質投入	グリーン購入	事務用品のグリーン購入			目標値	品目を増やす 3	品目を増やす 3	品目を増やす 3	品目を増やす 3	品目を増やす 3	
製品	製品への環境配慮	環境に配慮した施工の推進 工事現場におけるLEDの推進 家庭用省エネ給湯器の販売促進			目標値	家庭用省エネ給湯器の販売促進 3棟	家庭用省エネ給湯器の販売促進 3棟	家庭用省エネ給湯器の販売促進 3棟	家庭用省エネ給湯器の販売促進 3棟	家庭用省エネ給湯器の販売促進 3棟	
社会貢献	環境活動	会社周辺の清掃	月1回		目標値	会社周辺の毎月1回の清掃	会社周辺の毎月1回の清掃	会社周辺の毎月1回の清掃	会社周辺の毎月1回の清掃	会社周辺の毎月1回の清掃	

4. 主な環境経営計画

	取組項目	活動計画の内容
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量、都市ガス及びLPガス使用量の削減	空調の設定温度の適正化（夏季28℃、冬季20℃） 外出時等使用していない部屋・場所の消灯の徹底 クールビズ・ウォームビズの励行
	ガソリン・軽油使用量の削減	アイドリングストップの励行 急加速・急停車の防止 現場への効率的な資材配送及び人員移動（相乗りの推進） 社有車の運転記録の管理
	事務所の灯油使用量の削減	暖房の適正な温度管理（冬季20℃） ウォームビズの励行
廃棄物排出量の削減	一般廃棄物排出量の削減	分別の徹底によるゴミの減量 一般廃棄物のリサイクル率80%の達成 コピー用紙の裏面使用、両面コピーの推進、ミスコピーの防止によるコピー用紙の購入量の削減 使用済封筒の再利用
	産業廃棄物排出量の削減	産業廃棄物のマニフェスト管理の徹底 産業廃棄物排出量のリサイクル率99%以上維持
	総排出量の削減	水の出しっぱなし防止を徹底し、節水を励行 雨水の利用推進
	化学物質の管理	有害化学物質の徹底管理
	環境に負荷の少ない設計施工	環境に配慮した施工を推進 工事現場におけるLED製器具使用の推進 家庭用省エネ給湯器の販売推進
	グリーン購入	事務用品のグリーン購入の推進
	環境活動の社会貢献	本社周辺の清掃作業及び地域環境活動への参加

5. 環境経営計画の取組結果と評価

取組項目	単位	8期目 目標 2023.2~2024.1	8期目 実績 2023.2~2024.1	達成区分	評価
電 気	kg-CO2	22499	21293	○	エアコンの適切な温度設定や照明の節電など、電気消費の抑制に努めたことで目標を達成できた。
	%	5%削減	5%削減		
LPガス 都市ガス 灯 油	kg-CO2	5414	6044	×	主要な用途として暖房及び給湯により冬季に使用量が増える傾向があり、省エネの意識向上を図ったが環境負荷・コスト面共に増加してしまった。
	%	5%削減	12%増加		
ガソリン 軽 油	kg-CO2	134157	125731	○	アイドリングストップ及び移動の効率化（相乗りなど）を図り、消費量を抑えた。
	%	5%削減	11%削減		
水	m3/年	208	207	○	節水の意識向上で使用量削減に貢献し、目標を達成することができた。
	%	5%削減	5%削減		
一般廃棄物の リサイクル率	kg		1157/1426	○	分別の徹底をし、特に業務上使用が多い紙類を可燃ゴミとして排出せずシュレッダーにかけて資源ゴミとするなど、工夫したことがリサイクル率の上昇に繋がった。
	%	80%以上	81%		
コピー用紙購入	kg	716	784	×	コピー用紙の裏紙使用及び紙出力を必要最小限に留める意識は定着してきているが、受注工事の工事書類等への使用量が多く、残念ながら増加の結果となった。
	%	5%削減	9%増加		
分別及びリサ イクル	kg		3,079,741 3,127,659	×	公共工事の設計仕様に従い、産業廃棄物のリサイクルを徹底した。埋立処分の産業廃棄物の品目が多くあり、目標を僅かに達成できなかった。
	%	リサイクル率 99%以上	98.5%		
化学物資 (乳剤) の管理	kg/年	管理徹底	3,200	○	管理を徹底し、保持量の把握をしている。
グリーン購入	---	実施	実施	○	グリーン購入、事務用品の購入。
環境配慮施工	---	実施	実施	○	現場でのLED製品の導入は実施している。家庭用の環境配慮型給湯器（エコキュート・エコジョーズ・エコフィール等）は導入の機会に積極的に販売促進しており、ほぼ採用に至っている。
環境活動	件数 (月1回)	12	12	○	本社事業所の前面道路及び周辺は交通量が多く、ゴミの投げ捨てが多い。月に1回、日程を決めて定期的に清掃活動を行っており、地域貢献になると思われるので今後も継続して取り組んでいきたい。

(環境意識向上の取り組み) ※事業所内



①節電への取り組み・・・エアコンのコントローラー及び照明スイッチ付近に具体的な温度設定の表示等意識付けの掲示



②節水への取り組み・・・給水口へ ③紙類の資源ゴミ化推進・・・不要な紙類はシュレッダー使用で資源ゴミに。 掲示。



④コピー用紙使用量の削減
・・・コピー機の使用設定は裏紙トレーを標準設定。また紙のサイズに分けた裏紙及び使用済封筒のストッカーを設置することで資源の再利用への意識向上を目指す。

(環境意識向上の取り組み) ※事業所



(倉庫屋根・太陽光発電設備)



(太陽光発電と連携した蓄電設備)

⑤土木倉庫に太陽光発電設備及び蓄電設備を設置 (再生可能エネルギーの利用)

- ・・・土木倉庫の新築に合わせ、使用電気を太陽光発電で賄うべく、屋根上にソーラーパネルと発電した電気を貯めておける蓄電設備機器を導入。太陽光発電(創電)→蓄電→使用のサイクルで電気使用に伴うCO₂削減を期待でき、環境及びランニングコストに配慮した設備として活用している。



⑥雨水貯留槽の設置 (再生資源の利用)

- ・・・雨水の利用

自社倉庫に屋根から雨樋で集水する雨水タンクを設置している。

降雨量が多い時には、かなりの水の備蓄ができる。

溜めた雨水は建設現場に利用することで節水と、自然の資源の有効活用ができる。

(環境意識向上の取り組み) ※社会貢献



⑦地域草刈りボランティア

- ・・・公共事業受注に伴う現場周辺の地域活動、河川組合の呼びかけに対応したボランティア活動の一環として草刈りに積極的に参加をし、環境活動への意識向上と社会貢献の両面で取り組んでいる。



⑧本社周辺清掃活動

- ・・・月に1回、本社周辺のゴミ拾いを実施。本社の前面道路は通行車両が多く、通り際にゴミを投げ捨てていく行動が目立ち、景観を損ねている為、以前より地域貢献の活動として取り入れている。

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

No.	関連法規等	要求事項	遵守状況
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法)	<ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物収集運搬業者、処分業者との委託契約 マニフェストの交付と保管(5年間) 産業廃棄物管理票交付等状況の報告 不法投棄及び木くず等野外焼却の禁止 	遵守 遵守 遵守 遵守
2	建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律 (建設リサイクル法)	<ul style="list-style-type: none"> 発注者に分別解体計画等の書面の交付(請負契約書への添付) 特定建設資材の再資源化を行う 建築物の構造、使用特定資材の種類、着手時期、分別解体等の計画を工事着手7日前までに届け出る 	遵守 遵守 遵守
3	建設副産物適正処理推進要綱	<ul style="list-style-type: none"> 一定量の建設資材の搬入もしくは指定副産物を搬出する建設現場は再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を提出する 	遵守
4	建設機械に関する技術指針	<ul style="list-style-type: none"> 公共工事での排出ガス対策型建設機械の使用義務 	遵守
5	特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律 (オフロード法)	<ul style="list-style-type: none"> オフロード法技術基準適合車輛の使用 適正燃料の使用(軽油) 	遵守 遵守
6	大気汚染防止法	<ul style="list-style-type: none"> 特定粉じん排出等作業の作業開始14日前までにアスベスト含有建材の撤去等に関する届け出が必要 アスベスト暴露防止措置の実施 	遵守 遵守
7	騒音規制法	<ul style="list-style-type: none"> 特定建設作業の開始7日前迄に届出 一定の騒音規制基準の遵守 休日、深夜、長時間の作業規制、禁止 	遵守 遵守 遵守
8	振動規制法	<ul style="list-style-type: none"> 特定建設作業の開始7日前迄に届出 一定の振動規制基準の遵守 休日、深夜、長時間の作業規制、禁止 	遵守 遵守 遵守
9	低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規定	<ul style="list-style-type: none"> 公共工事の使用機械における建設機械の型式指定 	遵守
10	水質汚濁防止法	<ul style="list-style-type: none"> 汚濁水の排出及び地下水の汚濁防止 作業現場での事故による汚濁水排出時の知事への届出 	遵守 遵守
11	長野県自然環境保全条例	<ul style="list-style-type: none"> 県自然環境保全地域内における土地の形質変更、土砂の採取等の行為を伴う場合は着手30日前までに知事へ届出 	遵守
12	フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> 第一種特定製品の管理者は管理者の判断に基づき、管理する第一種特定製品について点検等を実施する。 	遵守

環境管理責任者とエコアクション21事務局で、法規の遵守状況についてチェックを行いましたところ、過去3年間違反等はありませんでした。また同様に近隣住民からの苦情や、行政機関からの指摘、指導等もありませんでした。

7. 代表者による全体評価と見直しの結果

エコアクション21の取り組みをはじめから、10年目に入った。

総括すると目標達成率は全体的に高く、日頃から環境に配慮した行動と取り組みを通じて、社員の環境に対する意識は定着しているものとする。近年は温暖化に伴う異常気象の影響で寒暖の差が以前より大きくなったり光熱費のかかる期間が増えたりと対応に苦慮する部分はあるが、電気使用量を工夫して節約するなど、環境・経営の両面において負荷軽減に取り組んで欲しい。

CO2削減については今期10%の削減をし、目標を達成することができた。

来期も引き続き目標達成に向けて注力して欲しい。

産業廃棄物のリサイクル率の99%以上という目標が今期末達成となったが、埋立処分量の多い工事の受注によるものと推定される。従来通り産業廃棄物の分別を徹底し、混合廃棄物の削減や再資源化の促進に努めて、目標が達成できるよう、会社一丸ととなって取り組んでいきたい。

また来期に当っては方針・目標・活動計画・実施体制の見直しは行わず、本年度の諸活動を継続し、今期達成できなかった部分は認識を深め目標達成に向けた施策を通じて、社員全員にこの環境経営活動を充実させていきたい。

川浦土建株式会社
代表取締役社長
川 浦 俊 樹